



| | |
|------------------------|--|
| Title | Hokkaido University International Symposium on Sustainable Development 2006 : Report |
| Issue Date | 2017-03 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/65161 |
| Type | report |
| Additional Information | There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL. |
| File Information | 32_chapter-1.pdf |



[Instructions for use](#)

1. Overview of Activities

Overview

- Title of event : **Hokkaido University International Symposium on Sustainable Development and its related events**
- Event period : Sat, Aug 5 – Wed, Aug 9, 2006
- Objectives : Based on the Hokkaido University Initiative for Sustainable Development (HUISD), which was launched in 2005, Hokkaido University aims to promote international educational and research collaboration that transcends the boundaries of conventional academic disciplines and to work with Japanese businesses to offer the University's latest research achievements to society.

- Achievements:

(1) The holding of the Hokkaido University Sustainability Science Forum

As part of the Poplar Project jointly initiated by Hokkaido University, The Asahi Shimbun Company and Hokkaido Television Broadcasting Co., Ltd. in July 2005, the University and The Asahi Shimbun Company cohosted the *Hokkaido University Sustainability Science Forum: Future of Humanity and Global Environment – From the Forests and Sea in the North* in Tokyo and Sapporo in 2006. The Tokyo forum, held at Yurakucho Asahi Hall on the morning and afternoon of August 5, drew a total of 1,000 people, whereas the Sapporo forum, held on August 6 at Hokkaido University Conference Hall, attracted 310.

(2) The publication of an advertisement for and a report on the Hokkaido University Sustainability Science Forum in The Asahi Shimbun

- An article featuring a conversation between the president of JFE Holdings Corporation and an executive and vice president of Hokkaido University was published in the morning edition of The Asahi Shimbun on August 5 nationwide, excluding Hokkaido, and on August 6 in Hokkaido (approximately 8.2 million copies in total).

- An article reporting on the forum was published in the national morning edition of The Asahi Shimbun on August 23, 2008. The newspaper's Hokkaido edition ran the article in a double-page color spread (pp. 16-17).

(3) The holding of the Hokkaido University International Symposium on Sustainable Development

This symposium, held at Hokkaido University Conference Hall from August 7 to 9, 2006, attracted 948 people from 19 countries. The plenary session on Day 1

featured 11 invited speakers, who addressed issues in five priority fields and interdisciplinary challenges. On Day 2, participants were split into three different parallel sessions to discuss technical issues. On Day 3, a poster session and another plenary session were held, and the topics also included the future of international collaboration. The three-day event featured 65 oral presentations and 147 poster presentations. Many participants expressed hopes that the symposium would be continued in the future, which led to the launch of the Sustainability Weeks program in the following year.

2. Sustainability Science Forum

T O K Y O

8月5日(土)東京開催

北海道大学サステナビリティ・サイエンス・フォーラム

DO
科学



人類と地球環境の明日 —北の森から、北の海から—

S A P P O R O

8月6日(日)札幌開催

参加
無料

8月5日(土)東京開催 ■会場:有楽町朝日ホール

【午前の部】 午前10時30分～(開場午前10時)

北大プレゼンテーション「環境技術が開くサステナビリティ」

- 1 主催者挨拶 北海道大学 中村睦男総長
 - 2 基調講演:「環境技術のフロンティア」
講師:鈴木基之氏(中央環境審議会会長、国際連合大学特別学術顧問)
 - 3 プレゼンテーション ガイド・進行:石 弘之氏
(北海道大学公共政策大学院教授)
- 市川 勝氏(北海道大学名誉教授)
笹賀 一郎氏(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長)
渡辺義公氏(北海道大学大学院工学研究科教授)

【午後の部】 午後2時～(開場午後1時30分)

東京市民シンポジウム「人類と地球環境の明日—北の森から、北の海から」

- 1 基調講演:「北海道で考える」
講師:倉本 聡氏(作家)
- 2 パネルディスカッション:
「人類と地球環境の明日—北の森から、北の海から」
月尾嘉男氏(東京大学名誉教授) 若土正曉氏(北海道大学低温科学研究所長)
柿澤宏昭氏(北海道大学大学院農学研究院教授) 岸 玲子氏(北海道大学大学院医学研究科教授)
コーディネーター:石 弘之氏







| | | | | |
|---|--|---|---|---|
|  鈴木基之 (すずき もとゆき) 東京大学工学系技術研究所教授、同所長、国際連合大学副学術長などを経て、現在、放送大学教授、東京世田谷学習センター所長、国際連合大学特別学術顧問、中央環境審議会会長、地球や環境の有限性に鑑み、これまでの人間の考え(ワタシ)を変えていく重要性を訴えている。1941年、東京都出身。 |  市川 勝 (いちかわ まさる) 東京大学理学系研究科博士課程を修了後、(財)相模中央化学研究所、北海道大学教授を経て、現在、北海道大学名誉教授。専門は触媒化学とナノテク。水素社会実現に向け触媒によるメタガスや工場副産水素の高度利用(水素貯蔵・供給とベンゼンの製造)に取り組む。1942年、東京都出身。 |  笹賀 一郎 (ささがいちろう) 北海道大学農学部附属演習林教授、同演習林林有種試験場場長などを経て、現在北海道大学北方生物圏フィールド科学センター長。専門分野は森林科学、森林環境機能学(特に防砂学・森林水文学)、流域保全および森林機能の解明と利用方法の確立を研究。1948年、宮城県出身。 |  渡辺義公 (わたなべ ぎこう) カリフォルニア工科大学客員研究員、宮崎大学教授などを経て、現在、北海道大学大学院工学研究科教授。専門は環境工学、衛生工学、水処理工学。「脱技術」を用いた汚水処理や有用資源の回収など、持続可能な水・廃棄物代謝システムの構築に挑む。1945年、北海道出身。 |  石 弘之 (いし ひろゆき) 朝日新聞社編集委員、東京大学教授、駐ソ連大使などを経て、現在、北海道大学公共政策大学院特任教授。専門は地球環境問題。国連環境計画や国連開発計画の上級顧問、国際協力機構参事などを歴任。地球規模で進行する環境問題に警鐘を鳴らした環境ジャーナリストの草分け。1940年、東京都出身。 |
|  倉本 聡 (くらもと そう) 東京大学を卒業後、ニッポン放送を経てシナリオ作家として独立。主にテレビドラマ(「北の国から」「昨日、悲劇で」「鏡の裏の時間」他多数)を手掛ける。プロのシナリオライター、役者育成のための「高良野塾」を主宰。CCC高良野自然地理理事長としてゴルフ場跡地再生にも取り組む。1935年、東京都出身。 |  月尾嘉男 (つおむら よしお) 名古屋大学教授、東京大学教授、総務省審議官などを歴任。東京大学名誉教授。専門はシステム工学だがITや経済、地域活性化や環境問題などマルチに活躍中。知床や釧路湿原、四方十川など日本各地の自然豊かな土地に「環境と情報」をキーワードにした私塾を展開。1942年、愛知県出身。 |  若土正曉 (わかつち しょう) 第17次日本南極地域観測隊隊員、ワシントン大学海洋学部客員研究員、北海道大学低温科学研究所教授などを経て、現在、同研究所長。専門は海洋物理学。オホーツク海や南極海の海洋循環、海水変動のメカニズムなど、極域の海洋が世界気候に果たす役割の研究に取り組む。1944年、広島県出身。 |  柿澤宏昭 (かきざわ ひろあき) ワシントン大学客員研究員などを経て、現在、北海道大学大学院農学研究院教授、森林法政研究所所長、環境審議会委員、総合地球環境学研究所共同研究員。専門は森林政策学、森林社会学。ロシアやアメリカなど北方諸国の森林政策に詳しく、その持続的の管理や多目的利用を模索する。1959年、神奈川県出身。 |  岸 玲子 (しらい けいこ) 北海道大学医学研究科博士課程を修了後、ハーバード大、札幌医科大学助教授などを経て、現在、北海道大学教授。専門は公衆衛生学や疫学。日本学術会議や公衆衛生に関する政府各種委員を歴任。北海道の地域特性を踏まえた調査研究により、健康障害のリスク評価や予防対策研究に携わる。北海道出身。 |

8月6日(日)札幌開催 午後2時～(開場午後1時30分) ■会場:北海道大学学術交流会館

参加
無料

札幌市民シンポジウム 「人類と地球環境の明日—北の環境現場から」

- 1 基調講演:「ユニバーサルの地球環境論」
講師:毛利 衛氏(宇宙飛行士)
- 2 パネルディスカッション:「人類と地球環境の明日—北の環境現場から」
齊藤誠一氏(北海道大学大学院水産科学研究科教授) 喜田 宏氏(北海道大学大学院医学研究科教授)
池田元美氏(北海道大学大学院地球環境科学科教授) 丸山博子氏(丸山環境教育事務所)
大崎 満氏(北海道大学大学院農学研究院教授) コーディネーター:辻 篤子氏(朝日新聞社論説委員)

| | | | |
|--|--|---|---|
|  毛利 衛 (もうり まさむね) 北海道大学大学院修了後、南オーストラリア州オーストラリア大学で理学博士号取得。北海道大学助教授を経て、1985年 NASA(現JAXA)のペイロード・スペシャリスト。1998年よりNASAのミッション・スペシャリスト。1992年と2000年、スペースシャトルに搭乗。現在、日本宇宙未来館館長、東京工業大学准教授、日本学術会議委員。1948年、北海道出身。 |  齊藤誠一 (さいとう せいいち) 日本IBM(株)東京サイエンス・フィクセンター客員研究員、(財)日本気象協会研究所研究員などを経て、現在、北海道大学大学院水産科学研究科教授。専門は、衛星海洋学、海洋生物学、水産海洋学。衛星データとITを活用した漁場予測情報サービスにより持続可能な漁業を目指す。1953年、福井県出身。 |  池田元美 (いけだ もとみ) 東京大学工学系研究科博士課程修了後、カナダ水産海洋省ベクトフォード海洋研究所研究員などを経て、現在、北海道大学大学院地球環境科学科教授。専門は気候変動学、海洋物理学、地球温暖化、生物多様性、水資源、食糧生産、エネルギー等。諸問題解決に向けた最適解提示を目指す。1946年、東京都出身。 |  大崎 満 (おさき みつる) 北海道大学農学研究科博士課程修了後、国際コムキ・トウモロコシ改良センター(メキシコ)客員研究員などを経て、現在、北海道大学大学院農学研究院教授。植物の根の働きやその周辺に存在する微生物の研究を通じて、肥料や農薬に頼らない持続的農業の研究や高知県環境修復に取り組む。1950年、北海道出身。 |
|  喜田 宏 (きた ひろし) 北海道大学医学研究科修士課程修了後、武田薬品工業株式会社技術研究職、北海道大学助教授などを経て、現在、同大学院医学研究科教授。入眠共通感染因子リサーチセンター長を兼務。「インフルエンザ流行のための基礎的研究」で日本学士院賞を受賞するなど、インフルエンザ研究の第一人者。1943年、北海道出身。 |  丸山博子 (まるやま ひろこ) 北海道教育大学卒業後、野生生物情報センターなどを経て、1992年に丸山環境教育事務所を設立。自然生態系を基とした環境教育の研究や実践に止まらず、道教育や工業大で教鞭をとる。道や札幌市の各種委員をつとめ、広く市民協働のまちづくりを目指し、活動をめぐる。北海道出身。 | <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"><p>託児・手話通訳 ご利用いただけます。 (札幌開催のみ)</p></div> | |

参加応募要項

参加ご希望の方は、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、ご希望のプログラム区分(右記参照)を明記の上、ハガキがFAXで右記の宛先までご応募ください。また、託児・手話通訳を希望される方はその旨をご記入ください。

●応募先/ハガキ:〒104-8691 東京都京橋郵便局私書箱56号「北大SSフォーラム」係
FAX:「北大SSフォーラム」事務局 03-6226-5651
(お問い合わせは「北大SSフォーラム」事務局 TEL:03-6226-6682まで※土日祝日を除く 平日10:00~18:00)

●応募締切/7月18日(火)消印有効

●当選発表/厳正なる抽選の上、招待状の発送をもって発表にかえさせていただきます。

※プログラムの区分

- ①/プレゼンテーション(午前の部)+東京市民シンポジウム(午後の部)
- ②/プレゼンテーション(午前の部)のみ
- ③/東京市民シンポジウム(午後の部)のみ
- ④/札幌市民シンポジウム

●アスパラクラブのホームページからもご応募いただけます。
<http://aspara.asahi.com/>
(会員登録が必要です)

※ご応募いただきました個人情報は、本フォーラムの申込状況の管理及び招待状の発送、託児・手話サービス希望される方への確認以外の目的には使用いたしません。

主催:北海道大学、朝日新聞社 後援:文部科学省、環境省、経済産業省、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道環境財団

全学ニュース

北海道大学サステナビリティ・サイエンス・フォーラムを開催

本学と朝日新聞社及び北海道テレビ放送は、それぞれが課せられた社会的責務を、より効果的かつ公正に果たすことを目的に提携・協力を進めることで平成17年7月に基本合意をしました。この基本合意の下での提携・協力を「ポプラプロジェクト」と称し、今回、その一環として「北海道大学サステナビリティ・サイエンス・フォーラム」を開催しました。

8月5日（土）は東京会場の有楽町朝日ホールで、午前の部として中村総長のあいさつにはじまり本学関係者によるプレゼンテーションが行われました。午後は作家の倉本聰氏による基調講演に引き続き「人類と地球環境の明日－北の森から、北の海から」と題してパネルディスカッションが行われました。当日の東京は気温、湿度とも高いにもかかわらず午前、午後合わせておよそ1,000名の参加があり、プレゼンテーションや講演に熱心に耳を傾けていました。

翌日の8月6日（日）は本学学術交流会館で開催され、宇宙飛行士の毛利衛氏の講演に引き続き「人類と地球環境の明日－北の環境現場から」と題してパネルディスカッションが行われました。札幌会場も定員310名を上回る参加がありました。

なお、講演の概要は後日、「持続可能な開発」国際戦略本部のホームページに掲載されます。



あいさつをする総長



東京会場の参加者